

札幌医学技術福祉歯科専門学校
学校関係者評価報告書
(令和7年度)

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

1 はじめに

学校関係者評価委員会は、より実践的な職業教育を進めるために、教育活動に関する意見交換を行なうが、学校の自己点検・評価の結果を確認・検討することを目的として設置されています。本校では、平成 26 年度からこの委員会を継続して開催しています。

委員の皆さまは、関連する業界の方々や専門職団体の代表、地域の住民、卒業生など、さまざまな立場の方々で構成されており、幅広い視点からご意見やご評価をいただいている。

本校では、委員の皆さまからいただいた評価結果を真摯に受け止め、改善が必要な点については速やかに対応を進めてまいります。そして、教職員一同が力を合わせて、地域や社会のニーズに合った学校運営や教育課程の充実に取り組んでいく所存です。

今後とも、関係者の皆さまをはじめ、地域の皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、以下に「令和 6 年度学校自己評価」に対して審議された「令和 7 年度学校関係者評価」の内容をご報告いたします。

令和 7 年 11 月

札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長 田邊 裕二

2 学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属
三浦 邦彦	日本赤十字 北海道ブロック血液センター
斎 貴代美	北海道言語聴覚士会
濱本 龍哉	新さっぽろ脳神経外科病院
泉水 康之	社会福祉法人札幌シニア福祉機構
小林 正弘	札幌市中央区西第八町内会

3 学校関係者評価委員会開催日時

令和 7 年 11 月 6 日(木) 16:00～17:20

4. 学校関係者評価

本委員会では、令和 6 年度の学校自己評価結果に基づき、教育理念・目標、学校経営、教育活動、学習成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令遵守、社会貢献の各項目について審議を行った。全体として、自己評価は適切であると判定された。委員からは、学校運営に対する前向きな取り組みや改善努力に対して評価の声が多く寄せられた一方で、今後の課題や改善の方向性についても具体的な意見が示された。

【今後への提言】

- 情報システムの利便性向上と活用促進に向けた支援体制の強化。
- 国家試験合格率向上に向けた継続的な取り組みと成果の可視化。
- 学力不振による退学防止に向けた入学前後の支援体制のさらなる充実。
- 地域との連携強化に向けた具体的な施策の検討(オープンキャンパスへの地域住民の招待等)。
- 少子化を見据えた学生募集戦略の再構築と財務基盤の強化。

令和6年度学校自己評価結果に基づく学校関係者評価一覧

札幌医学技術福祉歯科専門学校

自己評価項目		年度			自己評価	学校関係者評価
		6	5	4		
I 教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材像は適切に定められているか。	4.7	4.8	4.7	西野学園の教育理念・教育目標が定められており、それを基に学校では、学校方針、学校重点施策、教育課程編成方針、学校教育方針(学科毎の3つのポリシー)が定められている。	I 教育理念・目標についての学校自己評価は適切であると認められる
	2 社会のニーズ等を踏まえた学園・学校の構想を抱いているか。	4.6	4.7	4.5	令和6年1月に開催された経営会議の席上、理事長より「令和6年度学校法人西野学園経営方針」が発表された。令和6年度は第8次中長期計画「超えるべき5つの壁」の初年度にあたり、重点施策として「1.教育力の向上」、「2.人口減少に対応できる経営力」、「3.人材育成の推進」、「4.経営改善に向けた組織と労働環境改善」、「5.学園としての新たな姿の模索」の5項目が示された。また、校長より経営方針に基づいた「令和6年度札幌医学技術福祉歯科専門学校 学校方針」が発表された。	
	3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保証人(父母等)に周知されているか。	4.4	4.3	4.4	学生にはホーム・ルーム等で各科の教育方針(3つのポリシー)を中心に説明している。また、保証人(保護者等)には懇談会等で周知している。その他、受験生に対しては、オープンキャンパスなどでの説明の他、学園HPや印刷物(募集要項等)で周知している。	
II 学校運営	4 目標等に沿った運営方針が適切に策定されているか。	4.6	4.6	4.5	学園経営方針に沿った、学校および学科(部門)の運営方針が策定されている。また、学科(部門)の運営方針は2月の「令和6年度 学科・部署目標発表会」で全体に向け発表されている。なお、これらの目標を達成するための個人目標も立てられている。	II 学校運営についての学校自己評価は適切であると認められる
	5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。	4.3	4.2	4.1	学園および学校の運営組織は明確に組織図化されている。なお、学校では組織として有効に機能するため、校長・2副校長・統括部長を柱に令和6年度から4部(医療技術部、リハ・福祉部、リカレント教育部、事務部)および3係(総務係、教務係、学生係)体制を敷いている。また、組織として有効に機能するよう、それぞれ業務分掌が定められている。	
	6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。	4.1	4.0	4.1	教務事務支援システムやデスクネット NEO(事務処理)などの情報システムが導入され、業務の効率化が図られている。その他、学生も利用可能なグレクサやRocket Chat(ロケットチャット)等も導入されている。また、ChatGPTを利用したAIアシストシステム(Nishino-GPT)があるが、活用に関する啓発が必要である。	
	7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。	4.4	4.2	4.1	学校内総合力を高めるため、学校経営会議、部科長会議、職員会議、学科会議、各係活動等を通じて連携と協働体制の強化を図っている。また、リハビリ系3学科(理学療法士科、作業療法士科、言語聴覚士科)の連携強化のため、リハビリ3科合同クラスが実践された。その他、学生の社会参画や学生生活の充実等を目的に、8月に学校祭(札医技祭)が開催された。	
	8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4.7	4.5	4.5	学園HP、印刷物、SNS等で教育活動について情報公開している。なお、本校は文部科学大臣より「職業実践専門課程」として認定されているため、各学科の就職率等の状況、退学率、教員の属性、教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会の開催状況、研修の受講状況、授業科目等の概要などの情報を公開することが義務付けられており、毎年更新した上で、学園HP上で公開している。	
III 教育活動	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関として、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4.6	4.5	4.6	各科は厚生労働大臣より養成施設として指定されており、それぞれの「指定規則」により細かい内容が規定されている。それに基づき、講義要項(シラバス)、コマシラバス、科目系統図などが作成されており、修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間が定められている。	III 教育活動についての学校自己評価は適切であると認められる
	10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。	4.4	4.5	4.4	令和6年度の学校行事(式典、西野学園祭、避難訓練等)と通常通り実施された。また、令和5年に統き札医技祭が開催された。なお、学科行事はそれぞれ状況を確認しながら、新入生歓迎会、学科交流会、国試激励会などを行った。	
	11 授業規律を確保し、状況に応じて指導体制の見直しが図られているか。	4.6	4.4	4.5	学生便覧の学生心得に、学校生活全般にわたるルールやマナーが定められている。その中に授業規律確保に関する留意事項の記載があり、それに基づき授業規律を確保している。	
	12 関連分野の企業、施設、病院、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか。	4.5	4.4	4.4	関連の施設・病院等からの要望、教育課程編成委員会や事業所ヒアリングで出された意見、学生状況等を踏まえて教育課程の見直し時の参考としている。なお、教育課程編成委員会で出された意見の活用状況は、学園HP上で情報公開している。	
	13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。	4.3	4.5	4.6	学則ならびに教務規程等で基準が明確に定められている。	
	14 授業評価の体制が確立され、評価が適切に実施されているか。	4.3	4.5	4.4	授業終了後、学生に対し授業アンケート(5段階評価)を実施している。アンケートは教学マネジメント室で集約・分析され、その結果は一覧で教室等に掲示するとともに、非常勤講師を含めた各教員に個人票等でフィードバックされている。また、教員としてのキャリアに応じて公開授業、研究授業、オープン授業などを行い、他者評価を受け授業改善に役立てている。	
	15 職員の能力開発のための研修が行われているか。	4.2	4.5	4.3	研修は主に専攻分野における実務に関する研修(専任研修講習会、職能団体研修、学会、外部臨床実習など)と指導力の修得・向上のための研修(公開授業等、学園階層別研修、夏季・冬季研修会、職業実践専門課程に係る研修会など)があり、適宜参加している。また、事務系職員向けのSD研修も複数回実施された。なお、個人の裁量で研修先を選択する「研修費制度」があるが、令和6年度は外部の研修会に参加する機会が増えたため、予算の執行率は約67%(令和5年度は約50%)となった。	
	16 クラス担任と科目担当の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか。	4.5	4.4	4.4	クラス担任は科目の担当者(特に非常勤講師)と連携し、学生に関する情報のやり取りや学生からの授業に対する要望事項の伝達を行い、学生の実態にあつた指導方法を依頼している。また、各学科では1年次より基礎学力向上や国試合格等に向け、個別指導などの対策に力を入れている。	

IV 学修成果	17 就職率の向上は図られているか。	4.7	4.8	4.8	就職指導として学生サポートセンターによる就職ガイダンス、卒業生による講話、担任や学生サポートセンター職員を中心とした個別指導(面談、応募書類の点検、面接指導等)などが体系的に実施されている。また、学生サポートセンター主催のリハビリ職合同説明会、事業所説明会(臨床検査)の開催、学科では保証人懇談会の開催により就職率の向上が図られている。令和7年3月末時点では、7学科のうち4学科が就職率100%となった。	IV学修成果についての学校自己評価は適切であると認められる
	18 退学率の低減は図られているか。	4.3	4.4	4.3	退学者数は令和6年度は22名(令和5年度25名、令和4年度31名)となった。担任を中心とした個人面談の実施や学生サポートセンターとの情報共有などにより退学防止を図っている。退学理由はほぼ進路変更であるが、ベースに学業不振、心理的要因、学科(職種)への不適応なども見られる。	
	19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。	4.2	4.2	4.1	卒業生の社会的な活動や評価の把握は難しく、現状は個別相談、国試不合格者への対応、実習地訪問先での対応などが主となっている。学園全体では、学生サポートセンターによる事業所訪問などで情報を得ている。そのため、学園同窓会「西桜会」にかかる期待が大きくなっている。令和6年度は日胆支部で講演会が開催されるなど、支部の活動が活発化され、一層多くの卒業生の活動・評価を把握することが期待されている。	
V 学生支援	20 学生相談に関する体制は整備されているか。	4.7	4.7	4.7	クラス担任制をとどおり、学生全員の個人面談を早期に実施している。また問題があると思われる学生に対して、その都度個人面談や状況により父母等面談を実施している。また、学生サポートセンターの学生相談室と連携して、問題の把握・早期解決に努めている。	V学生支援についての学校自己評価は適切であると認められる
	21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	4.8	4.8	4.7	国修学支援新制度(返済不要な奨学生)を利用している学生は、令和6年度は81名(在校生約17%)が利用した。また、日本学生支援機構奨学生の利用者は288名(同60.4%)に上った。また、本校は社会人経験者を対象とした専門実践教育訓練給付金の指定講座となっている。その他、学園独自の支援体制として「学費支援制度」があり活用されている。	
	22 保証人(父母等)と適切に連携しているか。	4.5	4.5	4.4	令和6年度入学式後に父母等対象の入学時説明会が開催された。また多くの学科で個別に懇談会も開催している。出席状況や成績状況等は長期休業前に送付しており、特に日頃より学業や私生活で問題のある学生には、電話連絡や場合により父母等面談を実施するなど連携・情報共有に努めている。	
	23 卒業生への支援体制はあるか。	4.4	4.4	4.3	教員や学生サポートセンター職員による事業所訪問時の状況確認や卒業生向け機関紙「りあん」の発刊、同窓会「西桜会」に対する「学園同窓会支援チーム」による支援、学生サポートセンターによる卒業生対象の再就職支援体制等が整えられている。また、学科においても卒業生からの相談には適宜対応しており、卒後教育(復職支援など)や国試不合格者への対応なども行っている。歯科衛生士科、臨床工学技科では卒後セミナーを開催している。	
	24 ロングホールームなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか。	4.4	4.4	4.6	ロングホールームなどを活用し、学生サポートセンターによる卒業学年を中心とした就職ガイダンスやOB・OGによる講話、見学実習等により職業観の育成に努めている。	
	25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4.5	4.3	4.4	令和6年度はほぼすべての授業で対面による授業が実施された。教育環境として各教室・実習室にはプロジェクターが設置されており、ホールーム教室の他に講堂、視聴覚室、コミュニケーションルーム、図書館など人数や授業形態に応じた施設がある。また、学習支援としてクレクサなどが導入されるなどICT化が推進されている。	
	26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が実践されているか。	4.4	4.2	4.4	入学した学科の専門職に対する意識を高めることにより、学生が自己理解、自己啓発、自己実現出来るよう、見学実習、卒業生による講話等の方策をとっている。	
VI 教育環境	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4.5	4.6	4.5	施設・設備は指定規則に則り、必要な物品等は管理・整備されている。また、毎年、各学科からの物品購入計画に基づき、適宜更新を進めている。	VI教育環境についての学校自己評価は適切であると認められる
	28 図書館利用の活性化が図られているか。	4.7	4.6	4.7	図書館利用を活性化するため、入学当初から図書館1階で授業の調べもの学習を全員で実施したり、授業内で図書館の蔵書の紹介、学習時間の確保のために放課後は図書館で勉強していくように継続した声掛けなどが実施されている。そのため、入学時から卒業年次の国家試験対策までグループ学習や個別学習などに幅広く利用されている。また、図書館の環境は学生(卒業生含む)から好評である。(令和7年9月25日現在蔵書数33,005冊)	
	29 防災に対する体制は整備されているか。	4.7	4.7	4.6	自衛消防組織を編成し、避難経路も定められている。また、緊急連絡網、人命等に関する緊急時の対応が定められている。なお、5月に避難訓練、10月に防災訓練を実施した。	
VII 学生募集	30 学生の募集は適正に行われているか。	4.5	4.7	4.5	学生の募集は学則や募集要項に則り適正に行われている。入学試験は入試規程、入試判定基準等により実施されている。なお入試規程は入試制度委員会で適宜見直しされている。	VII学生募集についての学校自己評価は適切であると認められる
	31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4.3	4.6	4.5	募集要項等の印刷物、進学相談会、体験入学、学校説明会等の学生募集活動において、教育内容、学校生活、国試合格率、就職状況等に関する事柄は正確な内容を受験生に提供している。また、学園HPにも情報公開されている。	
VIII 財務	32 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。	4.6	4.5	4.4	学校(学園)の財政基盤は、負債(4億9,136万円)に対し運用資産(57億883万円)と約10倍あるため、中長期的には安定していると言える。	VIII財務についての学校自己評価は適切であると認められる
	33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4.7	4.6	4.4	予算・収支計画は学園本部を策定し、理事会で承認後施行されている。令和6年度事業活動収支計算書によると、収入は約15億4,370万円(予算15億5,5386円)、支出は約18億2,152万円(予算18億2,028万円)となった。以上より予算・収支計画は実際の収支決算と近いので、計画は概ね有効かつ妥当な範囲であったと言える。しかし、収入は前年度より減少しており、収入増への取組みが必要である。	
IX 法令等の遵守	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.7	4.8	4.6	法令・専門学校設置基準等を厳格に遵守のため、日常より教務関連書類は学科内や学科相互間で確認しミス防止に努めている。また、業務の法令・規定等遵守などを監査の基準とする。西野学園幹事による教学監事監査が実施された。その結果は監査報告書にまとめられ、不適切事項として報告された場合は、該当学科はその処理や改善策についてまとめて日報告している。	IX法令等の遵守についての学校自己評価は適切であると認められる
	35 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか。	4.7	4.6	4.7	学校法人西野学園として「個人情報保護に関する方針」を定め、教職員および関係者に周知徹底を図り、学園および各校が保有する個人情報の保護に努めている。また、学生への指導方針として「個人情報保護法に関する学生指導指針」があり、主に学外での実習時の個人情報の秘密保持義務などが指導重点項目として定められている。なお、学外での実習時には実習先と個人情報保護に関する協定を締結している。	
X 社会貢献等	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4.5	4.6	4.5	令和6年度は実習室・講堂・視聴覚室の外部貸出しが平常に戻り、関連団体を中心とした研修会・講演会・試験会場などで利用された。また、体育館の貸出しは地域貢献を目的として、サッカー少年団・幼児・小学生向けスポーツ教室、中学生向けバスケットボールスクールなどに年間を通じて貸出しを行った。その他、中学生向けの職業体験「次世代人材職業体験推進事業」や高校生を対象とした「上級学校訪問」なども開催された。	X社会貢献等についての学校自己評価は適切であると認められる
	37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4.5	4.3	4.4	福祉系の学科を中心としたボランティア活動を推奨している。施設の夏祭りボランティアの紹介や関連団体の会に参加しレクレーションを担当したりしている。また、石山通りの花壇整備や校庭清掃などは学生主体で実施している。	
全 体 平 均		4.5	4.5	4.5	<評価基準>4段階 適切—5 ほぼ適切—4 やや不適切—3 適切—2 (わからない—1)	